

H.21

## 十二月（今月の掲示板）

真宗大谷派・願成寺

煩惱の犬は、追えども去らず（ことわざ）

煩惱（心を搔き乱す欲望）は、いくら払い除けても犬の如く纏い付いて離れない。即ち人間は、生きている限り煩惱は無くなりません。貪欲（欲を貪る）・瞋恚（顔も心も激怒）・愚痴（愚かな心）の3つを三毒の煩惱と言い、これらに細分すると『百八の煩惱』になると言われます。大晦日（12月31日）の夜に除夜の鐘を百八つ撞くのは、百八の煩惱を打ち消し・清々しい年を迎えるとの祈願ですが、初詣で、無病息災・交通安全・商売繁盛などの願い事をし、煩惱は無くせません。また、数珠（念珠）の珠は百八個（本念珠）や、約数の54や27個（略念珠）などで、煩惱の数です。だから数珠を掛けて拌むことは、「私が持っている沢山の煩惱を手に掛け・仏様の前に差し出す」ことです。正信偈に、『不斷煩惱得涅槃（煩惱を消さずに静かな心を得る）』とあり、親鸞聖人は『沢山の煩惱を持つ私が、他力（無数のご縁）により生かされて生きている』と頭が下がり、「語りの手前まで来ている」と喜ばれたのです。